

『のら』は夢の中。ニコニコしながら寝ている。『のら』は気が向かないと起きないのである。今朝はいつにもまして遅い。楽しい夢を見ているのか、まだスヤスヤ寝ている。『のら』は夢を見るのが好きである。昨日は風船につかまって空を飛んだ夢を見た。『マナ』に自慢していた。『マナ』はどうでも良いといった表情で聞いていたが、『のら』は楽しそうに話し続けていた。居候として『マナ』の家に住み着いた『のら』は、気ままな日々を送っていた。

『のら』が起き上がった。「もう少したったの『マナ』」と言って、ノビをして横の『マナ』を見た。『のら』は首を傾げ何か考えている。『マナ』は話しかけた。しかし『マナ』は反応しない。「楽しい、楽しい、夢、夢」と言いながら、また横になった。どつやら『のら』は夢の続きを見ようとしているやうである。

少したって『のら』がまた起き上がった。今度は太く短い手で、頭をポリポリ掻き始めた。夢の続きは楽しくなかったのか、不機嫌そうである。『のら』は手足をバタバタさせた。どつやら悔しい夢だったやうである。その横で『マナ』は「スウスウ」と気持ち良さをそうに寝ている。それを『のら』はどつやらまじそつに見ていたが、やがてつまらなそうに寝床を後にした。奥の部屋からガチャガチャと音が始めた。しばらくして『のら』は寝床に戻ってきた。『マナ』の様子を伺いつつそつと『マナ』の寝床に入る。『マナ』の寝床は気持ちがいいのか、寝ている。『のら』の表情が緩みニコニコ始めた。どんな夢なのか、とても嬉しそうである。やがて手足をバタバタさせた『のら』は、勢い余って『マナ』を蹴飛ばしてしまった。

